

保育園において新型コロナウイルス感染症が発生した実際の対応と現在の状況を冷静に理解することについて



国立感染症研究所感染症疫学センター 菅原 民枝 大日 康史

■ 2020年の1月から2月にかけての動向を冷静に受け止め、今後も冷静に受け止める。

『1月14日、神奈川県内の医療機関から管轄の保健所に対して、中華人民共和国湖北省武漢市の滞在歴がある肺炎の患者が報告されました。』このような報道がなされたのは、一年前のことです。新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者の発生について（1例目）について、厚生労働省のホームページに記載されています。https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08906.html

まだこの頃は、世界保健機関もパンデミックと正式に認定していませんでした。「家族間などの限定的なヒトからヒトへの感染の可能性が否定できない事例が報告されているものの、持続的なヒトからヒトへの感染の明らかな証拠はありません。」と言っていました。保育園においても、武漢市から帰国されたご家庭には、滞在歴を申告していただくようにするといった認識だったでしょうか。

それから、武漢市への渡航歴がなくても、武漢市に滞在した方との接触がある方が感染したという報道が1月28日にありました。そのころから、皆さんも「濃厚接触者」を把握する「積極的疫学調査」という単語を聞くようになりました。こうした本人は渡航歴がないものの、接触歴がある患者さんの発生が数例続きましたが、1月30日には、無症状で感染が確認されたという報道がありました。このころから、だんだんと、この新型コロナウイルス感染症に関連した患者発生に関し

て、関心が高まっていきます。武漢市に住む邦人がチャーター便で帰国しPCR検査の結果、新型コロナウイルスが検出されたことの報道がありました。しかし、まだまだこの頃は、武漢市に関連したものでした。

一方で、世界中の国々が政府公式発表として新型コロナウイルス感染症の感染者数や死亡者数の報道を開始しました。まだ、中華人民共和国で爆発的に増えており、20,438名と発表していたので、多くの人が中国国内での出来事であろうと思っていたのかもしれませんが。現在（2021年1月18日）全世界で最も感染者数の多い米国は、一日あたり30万人を超える日もあり、累積で2300万人を超え、死亡者も38万人を超えている状況ですが、この当時は11名と発表していたころです。その時に、1年後に2300万人を超えると誰が予想できていたでしょうか。

2月3日には、世界57カ国から船員1068人、乗客2645人の計3713人が搭乗したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に到着し、集団感染が発生し、合計712人の患者が確認されました。

一気に目が覚めるような思いをしたのは、武漢市、中国を含めて渡航歴のない方、濃厚接触者ではない方の報告が入り始めた頃です。2月13日には渡航歴のない80歳の死亡例の報告でした。この頃、つまり日本で最初の一例目が報告された1か月後の2月14日には、日本国内の発生状況はチャーター便帰国者を除いて21人でした。そ

の後、3月11日になって、世界保健機関が「パンデミック」と認定しました。

こうした状況だったことを冷静に理解していただきたいと思います。同じように未来を冷静に受け止めることができるでしょうか。おそらく、現在よりも日本国内の発生状況において患者数は増加していることでしょうか。米国や欧州のような患者数になっているのでしょうか。

しかしながら、現在（2021年1月18日現在）、当時（昨年今頃（1～2月））に比べて、疫学を含めて科学的な知見が集積され、わかってきたことも多くあります。不安になりすぎなくてもよいのです。一方、変異株等について、まだまだ注意をしていかなければならない情報もあります。そうした両方の情報を冷静に受け止めていきましょう。そのうえで、私どもがすべき対応を、保育園の子どもたち、職員を守っていくことを考えていきましょう。

■現在の動向：学校は臨時休校にならない理由

日本国内で一例目が報告されてからの一年、あつという間だったでしょうか。長い、長い一年だったでしょうか。2021年1月7日からの2度目の緊急事態宣言が出されることを想定していたでしょうか。保育園の先生方は今でも、自分が感染するかもしれないと思いながらドキドキし、いつまでこの状態が続くのかと多くの情報にお疲れになったに違いありません。私どもが、流行の長期化をお伝えしたのは、2020年4月号（2020年3

月18日）です。あまり恐怖心を煽ってもいけません、心構えはとても大事です。ちょうど100年前に起ったスペイン風邪といわれたパンデミックは、1918年から3年かけて収束しています。100年前と同じ状況ではありませんが、数週間、数か月で完全に収束する見込みは厳しいです。

2021年1月7日に、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の一都三県の緊急事態宣言が出され、1月13日には栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県にも出され、2月7日までとされています。

今回の緊急事態宣言においては、前回4月7日に行われた措置とは違い、学校は一斉に臨時休校になっていません。なぜでしょうか。

文部科学省の調査によると、児童生徒の感染状況については（6月1日～11月25日までに文部科学省に報告）、小学生1252人（有症者434人 35%）、中学生782人（有症者411人 53%）、高校生1224人（有症者767人 63%）でした。小学生から高校生まで、罹患者は非常に少ないことがわかります。そのことを表にするとわかりやすいです。罹患率と有症率を出すためには、分母の情報（在籍者数）が必要なので、文部科学省の文部科学統計要覧（令和2年版）を使います。

この表1からわかるように、小学生から高校生まで、罹患率がとても低いことがわかります。そして、特に小学生では感染者のうち無症状者が75%ですので、小学生の有症率は10万人あたりとても少ない人数です。また、感染経路について

表1. 新型コロナウイルス感染症の学校における児童生徒の感染状況

	感染者数	有症者数	有症者の割合	在籍者数	罹患率	有症率
小学生	1252人	434人	35%	6,368,550	0.0197%	0.0068%
中学生	782人	411人	53%	3,218,137	0.0243%	0.0128%
高校生	1224人	767人	63%	3,168,369	0.0386%	0.0242%

出典1：学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.12.3 Ver. 5）

出典2：文部科学統計要覧（令和2年版）

は、小学生の73% (1,252人中916人)が「家庭内感染」であることが明らかになりました。一方、高校生は35% (1,224人中431人)が「感染経路不明」です。高校生の場合は、生徒の生活圏が広がっていますし、学校外の行動もありますので、学校内だけではなく感染症対策を意識することが必要であると述べられています。年齢が下がるに従い罹患率、有症率が低下していることから、保育園児においては小学生よりさらに小さな数字になっていることは間違いありません。

次に気になるのは、こうした感染者が発生した学校での拡がりについてです。同じく、6月1日～11月25日までに文部科学省に報告のあった児童生徒の感染状況の同一の学校において複数の感染者が確認された事例の状況(表2)によると、5人以上の感染者が確認された学校数は、小学校12件で発生率は0.06%、中学校11件で0.11%、高等学校36件で0.74%です。比べてみると高等学校での発生率は高く小学校では低いです。高等学校では、「学校内でも、教員の直接的な監督下にはない行動や、自主的な活動が増えることから、感染対策について生徒自ら留意するよう、指導することが必要です。」と述べられていますが、保育園においては、保育士をはじめ、大人の伝えることを子どもたちはしっかり受け止めています。大事な視点は、保育園内だけではなく、家庭でも同じように感染症対策をするように、保護者に保育園内の感染症対策をしっかり伝えることです。

一方で、表3からわかるように文部科学省の調査によると、教職員の感染状況については(6月1日～11月25日までに文部科学省に報告)、小学校169人(有症者124人 78%)、中学校121人(有症者100人 83%)、高等学校145人(有症者113人 78%)です。感染者のうち有症者の割合は、教職員の罹患率が生徒児童より高いことがわかります。また、感染経路については、「感染経路不明」が63%で多く、「学校内感染」は10%でした。

こうした調査をみると、生徒児童の感染状況は非常に罹患率が低く、教職員のほうが高いこと。また、学校内での拡がりについても発生率は非常に低いため小学校、中学校、高等学校の一斉休校の必要がないことがわかります。

また日本小児科学会が学校や保育施設の閉鎖は流行阻止効果に乏しいということも報告しています(2020年11月11日小児のコロナウイルス感染症2019(COVID-19)に関する医学的知見の現状。http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=342)。

保育園にとって、最も身近な存在は、きょうだい関係である小学生ですので、こうした学校における感染状況の動向についても理解しておきましょう。保育園に学童が併設あるいは隣接されていることもあります。現在のところ小学生は罹患する年齢の中心にはなっておらず、20歳代～30歳代が最も多いので、むしろ教職員がより注意した感染予防策をしなければなりません。

表2. 新型コロナウイルス感染症の学校の報告数

	5人以上発生件数	学校数	発生率
小学校	12	19,738	0.06%
中学校	11	10,222	0.11%
高等学校	36	4,887	0.74%

出典1：学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.12.3 Ver. 5)

出典2：文部科学統計要覧(令和2年版)

表3. 新型コロナウイルス感染症の学校における教職員の感染状況

	感染者数	有症者数	有症者の割合	在籍者数	罹患率	有症率
小学校	169人	124人	73%	468,743	0.036%	0.026%
中学校	121人	100人	83%	290,909	0.042%	0.034%
高等学校	145人	113人	78%	304,607	0.048%	0.037%

出典1：学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～
(2020.12.3 Ver. 5)

出典2：文部科学統計要覧（令和2年版）

繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染症の対策は、①最新の発生情報を収集すること。②基本的な感染症の対策を徹底すること。③子ども及び保護者・職員が差別的な扱いを受けないようにすること。これらの3つの事項は1年経過しても大事な視点です。

■保育園において新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応

本誌2020年9月号でも「保育園で発生した場合に備える」とお伝えしています。

・初発例を探知したら、保育園は施設主管課（保育課等）と保健所、嘱託医（園医）に速やかに連絡をとりましょう。関係者のリストは作成できましたか？夜間の連絡先も調べましたか？発生時の専任者の選定はできましたか？

・発生例があった場合には、保健所の積極的疫学調査によって、二次感染の防止策を行うことがほとんどです。濃厚接触者を判定することもあります。そうした調査を実施するためにも、名簿の準備はできていますか？日頃の健康観察の記録をすぐに出せるように準備ができていますか？

・実際の園内の対応（消毒、休園等の決定、保護者への連絡、公表等）については、施設主管課及び保健所とよく相談をして決めます。保育園が一人で頑張る必要はありません。専門家と一緒に対応を考えておきましょう。日頃からの保護者との連携は大事になります。日常的に行っている感

染症対策について、保護者に知らせていますか？家庭でも行う対策について提示ができていますか？

また、本誌2020年12月号で東京都港区の保育園における実態調査結果についてお知らせしています。保育園内での新型コロナウイルス感染リスクは極めて低いこと、園児はマスクを着用していないにも関わらず、施設内の感染リスクは極めて低く、職員から園児、園児から職員、園児から園児への感染の可能性も低いという結果です。保育園での感染症対策は、施設内の流行を防ぐために十分であったようです。一方、職員は、マスクをはずした状態で会話をしたり、食事をしたりすると職員間での感染の可能性があります。更衣室や休憩室は注意をしましょう。

この、「保育園での感染症対策」ですが、本誌で何度も何度もお伝えしているように、日常の衛生管理と感染症拡大防止策を切り分けて、行いましょう。見直すことも大事です。

■保育園で新型コロナウイルス感染症が発生した場合の事例から

ある自治体のA保育園から、実際に発生があった場合の園内の対応事例（職員の感染により休園を経験した保育園の事例）について、自治体内の看護師会（保健担当者会）において情報共有をしたと伺いました。こうした取り組みは、大変よいことなので、ご紹介したいと思います。A保育園

の看護師さんにメールインタビューした内容から、お伝えします。

『(1) 今回の感染者の発生があったとき、まず、最初にどう思いましたか。』

「多少動揺はしました。きっと他の職員はもっと動揺していると思いましたので、すべき事、他の職員へ伝えるべき事等を整理しました。翌日は朝から混乱が予想されたので、戦地に赴く戦士的な気持ちで気合を入れ、シミュレーションを繰り返しました。感染した職員から園長の所に陽性の連絡が入ったのが、夜20時前で、そこから園長が保育課と協議し、翌日の休園が決定したのが21時半。私の所に連絡が入ったのが20時過ぎでしたのでゆっくり翌日のシミュレーションをする余裕がありました。これが保育中だったら、また色々変わってくると思います。保護者からの苦情に関する事や感染した職員のフォローに関する事などが気になり、自分の感染の可能性に関する事等は、その時は全く頭にありませんでした。」

『(2) 誰と最初に相談しましたか。』

「園長と翌日の休園の出勤者（園内消毒作業の為）について話をしました。このとき、風邪など体調不良の職員と感染した職員と同じクラスの担任など濃厚接触者となるであろう職員は休みと決めました。」

『(3) 今回の対応を通して、もっとも心強かったのは、どなたでしたか。』

園長です。休園期間中も事務処理の為に出勤し大変さを分かち合える人がいるという事が一番心強かったです。」

『(4) 振り返ってみて今回の対応で一番大変だったことは何ですか?』

「今回結果的に複数名の陽性者が発生しました。そのため、検査の結果を待ちながら濃厚接触者の選定を行っている間にまた陽性の連絡がという状態がありました。結果が出揃えば1回で済む事

も、複数回しなければならず、また何人陽性者が出るのかという不安がありました。先が見通せない状況で、複数回も保護者に連絡を入れなくてはいけない申し訳なさもあり、それが一番大変で、つらかったです。」

『(5) 今回の対応について、どういう準備をしておけばよりスムーズだったと思いますか?』

「全園児・全職員の名簿の作成です。予想以上に大変で、時間のかかる作業でした。園全体がバタバタしている状況で、この作業に時間を費やす事は無駄だと思いました。記載漏れや変更漏れがあり、保健所にもご迷惑をお掛けする事にもなりました。」

今回のインタビューを通して、管理職である園長先生が、子どもと職員を守っていこうという気持ちにあふれておられたのだろうということを感じました。感染症対策は、健康危機管理の1つです。看護師さんや保健担当の先生に感染症対策を全てお任せしてしまっている施設もあると思います。専門的な知識がある方や専任者にお任せすることは大事だと思いますが、感染症対策は、保育園全体にかかわることなので、管理職である園長先生と今回の事案の専任者（ここでは看護師さん）の気持ちが一つになることが、危機を乗り越える力になるのだと思います。自分の判断が正しいのか間違っているのかわかりません。しかし、判断をしていかなければなりません。そのようなときに情報を共有し、同じ気持ちでいることができる同志がいれば、どんなに心強いでしょう。

実は、このインタビューのあとに、園長先生にも同じ質問にお答えいただきました。こうした取り組みをしてくださるところからも、健康危機管理の意識が高く、しっかりされていると思いました。園長先生も心強かったのは看護師さんと回答されており、信頼関係が、有事のときにこそ最も大事だなと思いました。また『今回の感染者の発

生があったとき、まず、最初にどう思いましたか。』という質問に対し、「いつ誰が感染してもおかしくない状況であり、発生があってもその事への驚き等はなかったです。感染した職員の心理的状况と体調が心配でした。」と、感染をした職員への配慮がなされていました。感染症対策では、感染者0人が目的なのではなく、いかに2次感染を減少させるかです。拡大防止策をしっかり行うことが大事なのです。つまり、園内での発生はあり得ると認識をし、実際に発生したとしても動じることなく、対応していけばよいのです。初発例の方が何か悪いことをしたわけでもないのに、つらい思いをすることはよくあります。ですので、初発例の方に気持ちを寄せてくださっていること、大変に素晴らしい管理職だと思いました。いつかきっとお目にかかりお礼を申し上げたいです。

■危機管理の対応事例を共有する

さて、今回の事例を皆さんはどのような気持ちで読んでくださったでしょうか。保育園で感染症の発生はあり得ることですが、新型コロナウイルス感染症の場合は、ほとんどの保育園では経験がないかもしれません。小児の罹患が少ないためです。1つの自治体内で経験がある園とない園があると思います。しかし職員は成人ですので、今回のように職員が初発例となる場合も多いです。そのような状況の中で、今回のA保育園の場合には、自分たちの経験した事例を、他の保育園にも共有していただいています。この意味を考えてみましょう。

『(6) 今回の対応を、他の園と共有しようと思った理由を教えてください。隠しておきたい気持ちはなかったですか?』

「実は今回の発生のちょうど1週間前に看護師会があり、そこで他の園の経験報告を聞いていました。ですので、0からのスタートではなく、なんとなく想像がつく状態でした。そういった状態

で今回の発生を迎えた事で、初動に迷いなく取り掛かれました。0からのスタートであれば、不安も大きく、無駄な作業をしたり、迷いが出て判断がぶれたり、という事が起きたと思いますが、幸運な事に0からのスタートにはならず済んだので、この経験を共有する事で他の方の不安が少しでも解消されれば、と思いました。全く知らない状況では、自分がどの道歩いていけばいいのか、歩いている道で正解なのか、この道はどこまで続くのか、不安や疑心暗鬼になってしまいますが、自分の進むべき道がわかって、先が見通せる状況であれば、後は粛々と目の前の事をこなしていけるようになると思います。隠す気持ちは全くなかったです。園長も何も悪い事、恥ずかしい事はしていないので、後ろめたい気持ち、隠す気持ちを持つ必要はない、と言っており、経験の公開にも積極的な姿勢だった事も影響していると思います。」

園長先生からは、「隠す気持ちより共有し、必要な情報を提供することが重要だと思いました。その際、陽性者のプライバシーを守ること、個人が特定されるような情報は公開しないということは徹底する必要があります。」とのお話がありました。

筆者らが今回のことをご紹介してもよいかと伺ったときも、園長先生からすぐにご快諾をいただきました。自分たちの経験を、多くの保育園に活かしてほしいという気持ちを持っておられました。それは、1週間前の他園の経験を聞いたことが今回活かせたということもあったでしょうし、隠すような悪いことではないという認識があります。

感染症は、偏見や差別の歴史を繰り返しています。それは、わからないことへの不安もあるためです。しかし、わかってきていることも多くありますし、こうして事例を共有してくださることで、心構えをすることも可能です。すでに、こうした取り組みをなさっている施設長会もあること

も伺っています。ぜひ、多くの自治体で、こうした取り組みをしていただきたいと思います。子ども、職員を守るためにできることは、心構えなのです。先に登場したA保育園の前に事例報告をくださったB保育園からも連絡をいただいておりますので、次号で継続してお伝えしていきます。

■これから

いま、私たちは歴史に残る日々を過ごしています。この日々は、まだまだ終わりそうにありません。こうした毎日ですが、「日常からの衛生管理こそ」しっかりやっていきましょう。何か異常を感じとったとき、早期探知ができたときには、嘱託医、医療機関、行政、保健所等と連携しましょう。

子どもの時間も前に前に進んでいます。止まる

ことなく、日々成長しています。大切な卒園式の準備も開始されていることでしょう。去年は、状況がわからないこともあり、中止にせざるを得なかった保育園もあるかもしれません。5歳児クラスの子はみんな立派に成長しています。今から準備をしていきましょう。おそらく、従来通りの方法ではできません。感染症対策を行ったうえで、中止にならないような方法をご検討ください。オンライン等もご活用ください。

そして、例年この時期にはお伝えしていますが、「麻しん風しんの2回目の予防接種」を確認して小学校に送り出してください。予防接種歴をしっかりと確認をして、保護者にお伝えください。感染症対策は、新型コロナウイルス感染症だけではないのです。

